

セアカゴケグモに注意

■セアカゴケグモの特徴

セアカゴケグモはもともと日本にはいないクモでしたが、平成7年に初めて大阪府で発見されました。港湾地域で多く発見されたことから、外国から日本に入ってきたと考えられています。また、最近では奈良市内のあちこちで発見されています。なお、奈良市では駆除は行っていません。自宅敷地内で発見した場合は、下記の「駆除のしかた」を参考に駆除してください。

セアカゴケグモのメスは、体長が約10-14mmです。体色は全体的に暗褐色又は黒色で、腹部と背部の中央に赤色の縦縞紋があります。

オスはメスと比べて小さく、体長が約2-3mmで特徴的な赤い模様は見られません。

卵のう（卵の入った直径10mm程度の袋）と呼ばれる卵の袋を作り、中には約200個の卵があります。卵は2週間程度でふかします。

セアカゴケグモは強い毒性をもっていますが、突かれると驚いて死んだふりをするなど、攻撃性はなく、おとなしいクモです。素手で触らない限り、咬まれることは少ないといわれています。



■発生時期と場所

年間を通して発生はみられますが、特に暖くなる4月から10月にかけて多くなります。セアカゴケグモは、以下のような場所を好み住み着きます。

- ・日当たりが良く、雨風のあたらないところ
- ・昆虫などの餌が豊富にあるところ
- ・巣を張る適当な隙間があるところ



セアカゴケグモの「巣」は私たちが普段住居内などで見慣れたような円形ではありません。地面の割れ目や岩の間、下草や低木の枝葉の間などに、枯葉などを巻き込んだ不規則な形の網を張ります。その網には自分の体がちょうど収まる程度の大きさの、コップを逆さまにしたような形の住居がついており、ク

モは通常そこに隠れています。

こんなところに特に注意しましょう

■住宅の周辺

- ・排水溝のふたの裏、格子部分、マンホール、水抜き管内部、雨水ます
- ・ブロックのくぼみ
- ・花壇や植木鉢、プランターの持ち手の裏
- ・室外機や自動販売機の裏など人工的な熱源の周り
- ・外置きのサンダルや長靴の中
- ・自転車や三輪車のサドルの裏や泥よけの中

■公園など

- ・ベンチの下
- ・すべり台の下や、跳び箱として利用しているタイヤの裏
- ・墓石の間

■駆除のしかた

見つけても、絶対に素手で触らないでください！！駆除の際は、手袋等を着用してください。

- ・直接、家庭用殺虫剤（ピレスロイド系など）を噴霧すれば駆除できます。弱ったことを確認して確実に踏みつぶして下さい。
- ・卵のうには効かない殺虫剤が多いです！！卵のうを、さいばし等ではさんで、ビニール袋に入れ封をしたのち足で踏みつぶして下さい。（そのまま踏みつぶすと子グモが散らばる恐れがあります）

■咬まれたら

症状

- ・咬まれた瞬間に針で刺されたような痛みを感じます。
- ・やがて咬まれた部位の周りが腫れて赤くなります。痛みは次第に全身に広がります。
- ・悪化すると多量の汗をかいたり、めまい、吐き気、血圧上昇、呼吸困難等が現れることがあります。
- ・通常、重症化することはまれですが、小児や高齢者が咬まれた場合は症状が重くなる恐れがあるため、注意が必要です。

対処方法

- ・咬まれたときは、温水や石けん水で傷口を洗い流してください。多少出血があっても、包帯や止血帯はしないほうがよいでしょう。
- ・傷口は氷で冷やすと痛みが和らぎます。
- ・出来るだけ早めに医療機関を受診しましょう。（殺虫剤等で殺したクモを持参すると、適切な治療につながります）

■日頃の心がけ

繁殖力が非常に強く、気付かずに放置すると数十匹が1ヵ所から見つかることもまれではありません。暖かくなり始める4月ごろから10月ごろまで定期的（2週間に1回程度）に住宅周辺の点検を行ってください。見慣れないクモの巣があれば取り除き、家の周りを整理整頓しておきましょう。屋外での作業には厚手の手袋を着用し、履物の中にクモがいないことを確認しましょう。セアカゴケグモや卵を見つけた場合は適切に処理しましょう。子グモは風や落ち葉等に乗って拡散します。発生が多数の場合は地域ぐるみで駆除を行い、繁殖防止に努めることが大切です。

問い合わせ先 奈良市保健所生活衛生課
0742-93-8395